



令和6年2月13日発行
編集 地域連携コーディネーター
橋浦 優香
文責 副校長 木村 総司

冬休みの挑戦！ パワーポイントで綴る成果と学び

1月23日 3学年の情報処理の時間に、「この冬チャレンジしたこと」をテーマに、生徒たちがパワーポイントを使い発表しました。お菓子作りやダンス、カラオケ95点に挑戦するなど、多岐にわたる挑戦がありました。文字の大きさやデザインに気をつけ、分かりやすく伝えました。この冬の挑戦が、生徒たちの成長や学びに繋がる素晴らしい経験となりました。



リアスカフェ 地域猫啓発イベントが大成功

1月27日 生徒が企画した「リアスカフェ」が大成功を収めました。今回のイベントでは地域猫に関するクイズなど、地域住民に地域猫について理解を深めてもらう取組も行われました。地域の人々は、コーヒーの香りに誘われてイベントに足を運び、地域猫についても理解を深めることができたことと喜んでいました。生徒たちも、生き生きと楽しそうにイベントに参加している姿が印象的でした。リアスカフェでは令和6年能登半島地震災害義援金募金も行われ地域社会において社会的な課題にも真剣に向き合っています。今後も様々な活動を通じて地域の発展に貢献していくことが期待されます。



山田小学校に防災出前授業

2月1日 1学年の生徒が山田小学校5年生に向けて出前授業を行いました。4月から総合的な探究の時間に「山田町津波碑ガイドマップ」を活用し山田町に存在する津波碑や過去の震災について学びました。9月には、町民向けに「津波碑ガイドツアー」を開催し、過去の津波と教訓を伝え、地域の安全への意識を高めました。今回は、この知識をもとにパワーポイントやクイズで津波碑や防災に関する授業を行いました。生徒たちは防災出前授業を通じて、地域の歴史と防災の重要性を学びました。



令和6年能登半島地震 災害義援金募金活動

2月2～6日 令和6年能登半島地震災害義援金の募金活動が生徒会執行部中心に行われました。生徒会長生駒 一真さんは「みんなの思いを届けることができ誇りに思います。被災地の方々へ少しでも支えになれば嬉しいです」と話しました。集まった募金は山田町社会福祉協議会を通じて被災地に届けられます。



山田高校、その魅力を語る

高校生活は、多くの人にとって人生の中で特別な時期です。今回は、卒業を控えた前生徒会長と書記の2名から見た山田高校の魅力に迫ります。

前生徒会長 阿部 清佳 さん

Q：なぜ山田高校に入学しようと思ったのですか？

就職と進学の見込が豊富など、家から近く通学が便利だからです。

Q：高校生活での一番の思い出や充実感を感じた瞬間は何ですか？

文化祭です。遅くまで作業をするなど大変なこともありましたが、当日は盛り上げることができ、達成感を得ることができました。

Q：進路について教えてください

岩手県立大学看護学部に進学し看護師を目指します。

Q：先生たちのサポートについて教えてください

少人数校であるため、先生との距離が近くそれぞれの進路に合わせて面接練習や添削指導をして下さいました。

Q：将来の目標や夢は何ですか？

訪問看護師として岩手県沿岸地域の訪問看護に関わることです。

Q：学校の雰囲気や生徒同士の関係はどうでしたか？

行事がある際は生徒同士が協力して全力で取り組んでいたことが印象的です。

Q：最後に山田高校の魅力を教えてください

総合的な探究の時間が活発なところです。地元について深く知ることができ、高校生議会では実際に提案が採用されることもあるので提案までの活動にやりがいを感じられます。

前生徒会書記 坂本 優女 さん

Q：なぜ山田高校に入学しようと思ったのですか？

山田町に唯一ある高校で学びたかったからです。また通学に便利だからです。

Q：高校生活での一番の思い出や充実感を感じた瞬間は何ですか？

部活動です。書道部の皆と楽しく活動できたことが思い出です。

Q：就職先の企業や仕事について教えてください。どんな仕事をする予定ですか？

三陸鉄道株式会社に就職し、乗車券の販売やアナウンスなどの仕事をする予定です。

Q：将来の目標や夢は何ですか？

地域貢献をし、地域を活性化させることです。

Q：学校の雰囲気や生徒同士の関係はどうでしたか？

明るい雰囲気があると思います。また行事に全力で取り組む生徒が多いです。

Q：最後に山田高校の魅力を教えてください

総合的な探究の時間や海の運動会が魅力だと思います。また、町唯一の高校な為、地域の方々との交流の場があるところも魅力だと思います。

卒業後も素晴らしい未来が待っていますね。高校での経験を大切に充実した人生を歩んでください。



左：阿部 清佳 さん 右：坂本 優女 さん